

1 梨の開花および生育について

梨の生育は、今冬の低温遭遇や3月の高温の影響によりかなり早く進み、開花時期は、いずれの品種も前年、平年に比べ6～12日早くなりました。

なお、一部の長果枝で「芽枯れ」や「弱小花そう」の発生がやや多い状況です。

平成30年 呉羽地区日本なし開花状況

(吉作平場基準)

品種名	開花始め			満開		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
幸水	4月11日	▲6	▲6	4月12日	▲8	▲9
豊水	4月5日	▲10	▲9	4月8日	▲9	▲10
あきづき	4月10日	▲6	▲6	4月12日	▲6	▲7
新高	4月3日	▲11	▲9	4月4日	▲12	▲12

▲は早いことを示す(例: ▲6は「6日早かった」)。

2 黒星病の発生状況について

① 落葉からの子う胞子飛散

黒星病の感染源の一つである落葉からの子う胞子の飛散は、モニタリング調査および落葉処理された園地いずれにおいても、過去に比べて非常に少ない状況です。

ただし、胞子飛散は通常5月末まで続くため、今後とも適期防除(間隔の遵守、雨前散布など)に努めてください。

表1 落葉からの子う胞子数の推移(モニタリング調査)

調査日	3月27日	4月2日	4月7日	4月12日	4月17日
H30	1.2	0.0	0.2	0.2	5.0
H29	0.6	0.6	18.0	101.4	366.4
H28	2.2	2.8	20.4	70.2	6.0

※数値は胞子採取器(スライドガラス1.8cm四方)に付着した胞子数の平均値(産地内5カ所)

※モニタリング調査では、胞子の動向を把握しやすくするため、人為的に落葉をかきあつめ胞子を飛散しやすくしている調査であり、この結果は落葉処理効果とは無関係です。

表2 落葉処理園地における子う胞子数の推移

調査日	3月27日	4月2日	4月7日	4月12日	4月17日
H30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
H29	0.0	0.0	0.3	0.4	0.5
H28	0.5	3.8	2.3	1.3	0.8

※数値は胞子採取器(スライドガラス1.8cm四方)に付着した胞子数の平均値(落葉処理4園地)

② 気象データによる感染危険度・発病危険度(千葉梨防除ナビより)

本年も千葉県で開発されたシステムを利用して、園地の温度と湿度データから黒星病の感染危険度と発病危険度を数値化(0～9の10段階評価)し、情報発信を行っています。

4月1日～15日に感染危険度は発生せず、このことから潜伏期間を経た15日後(4月26日～5月10日)の発病危険度も発生しませんでした。(昨年:感染危険度、発病危険度ともに1回)。

☆重要☆: 今後、黒星病芽基部病斑や果実、葉への発病が見られた場合、速やかに除去し園地外で処分してください。

3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
5	4月25～27日 (落花10日後)	マネージDF (DMI剤) 6,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 ハチハチフロアブル 2,000倍	300ℓ	黒星病、赤星病、心腐れ症 (胴枯病菌) ニセシシビダニ、アブラムシ類	
特	4月27日～ 5月3日頃	コンフューザーN 150本/10a		リンゴコカゲンハマキ、モモシクイガ ナシハシクイ	
6	5月3日～5日	ユニックス顆粒水和剤 47 2,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 サイアノックス水和剤 1,000倍	300ℓ	黒星病、心腐れ症、 赤星病 アブラムシ類、シクイムシ類 ハマキムシ類	
7	5月12日～14日	デランフロアブル 1,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病、心腐れ症	
8	5月21日～23日	ベルコートフロアブル 1,500倍 ファルコンフロアブル 6,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、ケムシ類	

- ① 防除間隔は10日以上空かないように注意する。
- ② カメムシ類の常発園、シクイムシ類多発園では、アクタラ顆粒水溶剤(2,000倍)を散布する。
- ③ 【心腐れ症】前年多発した園や本年多発の恐れがある園、または散布間隔が開き過ぎた場合には、5月下旬までにトップジンM水和剤(1,500倍)を散布する。

4 「幸水」の1回目摘果作業の留意点

- 4月上旬に降雹、遅霜が確認されていることから、被害果実に注意しながら作業を進めましょう。
- 「幸水」の1回目の摘果作業は、大玉生産に不可欠な作業なので満開30日後までの作業終了を目指しましょう。

満開30日後までに終了させることが、幼果の細胞分裂に重要!

5 コンフューザーNの設置は広範囲で!

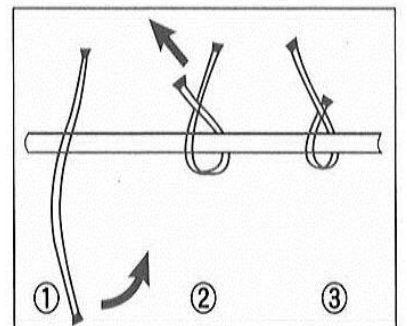
昨年、シクイムシ類の被害果実が発生した園地では、本年も発生密度が高まる恐れがありますので、早急に「コンフューザーN」の設置をお願いします。

設置方法

- 1) 設置本数：150本/10a
- 2) 設置時期：4月27日～5月3日
- 3) 設置間隔：約2.6m間隔(3間植えの園地では1樹当たり4～4.5本の割合で設置)

設置上の留意事項

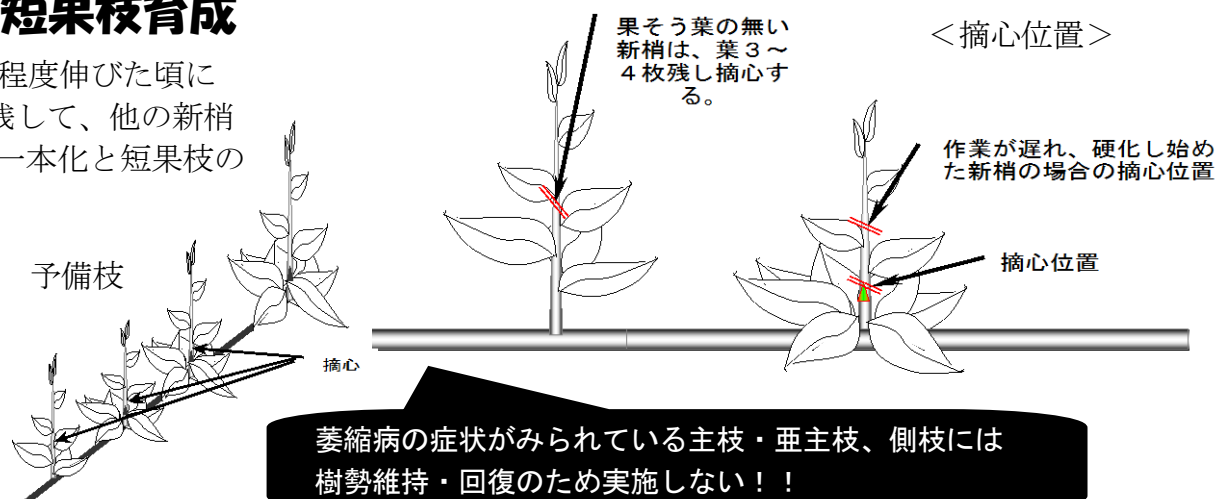
- 1) ほ場の外周は有効成分濃度が薄くなるため、**多めに設置**する(単独園や道路等に面している園では、外周の防風ネットを張り、有効成分の飛散を防止する)。
- 2) ほ場内に未成木樹や間拔等で樹の植わっていない場所があっても、これら場所を含めほ場全体に設置する
- 3) 傾斜地では**斜面上側を多めに**、下側は少なめに設置する。
- 4) **周辺にモモやウメがある場合には、これらも含めて設置する。**



梨棚の番線に巻きつけてから、一端を輪にくぐらせて固定してください(強く引っ張り固定すると端が切れる恐れがあるので、注意して下さい)。

6 予備枝の一本化と短果枝育成

予備枝の新梢が10～15cm程度伸びた頃に(5月上中旬)先端の1本を残して、他の新梢に摘心を実施し、予備枝の一本化と短果枝の育成を図りましょう。



萎縮病の症状がみられている主枝・亜主枝、側枝には樹勢維持・回復のため実施しない!!